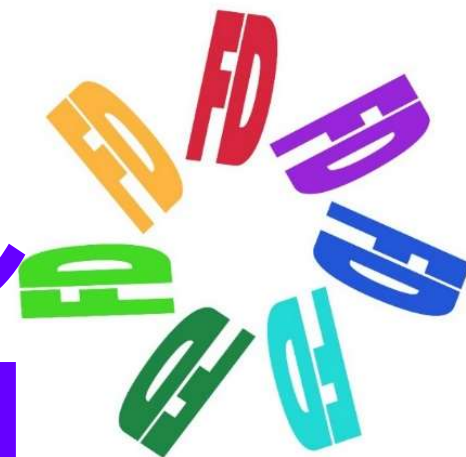


FD2025



プレゼントデザイン、
パストデザイン、
フューチャーデザイン
における異なった「今」



Tatsuyoshi Saijo

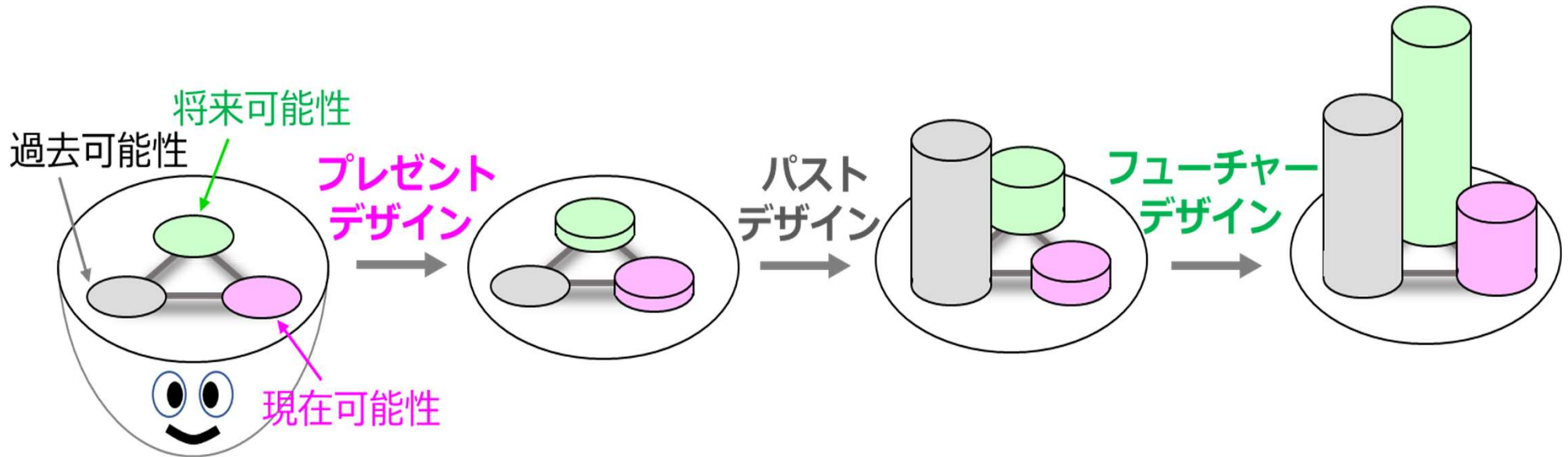
tatsuyoshisaijo@gmail.com

September, 2025

<https://www.kuas.ac.jp/edu-research/collaboration/future-design-research-center>



三つの可能性と三つのデザイン



過去可能性：過去の人々の決断や行動を評価する能力

現在可能性：目先の利益を犠牲にしても、現在の世代のしあわせをめざすことで今の自分のしあわせを感じる能力

将来可能性：目先の利益を犠牲にしても、将来の世代のしあわせをめざすことで今の自分のしあわせを感じる能力

Saijo (2025), 西條 (近刊)

三つの可能性と三つのデザイン

＊可能性を発揮するために、＊デザイン

- ・ **パスト・デザイン**：「**今**」から「過去」
- ・ **プレゼント・デザイン**：「**今**」から「将来」
- ・ **フューチャー・デザイン**：「将来」から「**今**」

この三つの「**今**」は
同じものなのか

三池炭鉱遺産のFDを題材に

- **三池炭鉱遺産**

1997年閉山⇒2015年：明治日本の産業革命遺産として
世界文化遺産に登録（強制労働、炭坑事故、労働争議）

- **三池炭鉱遺産のFD**

Gharaati et al. (2025)：2025年、大牟田市と共に住民の
皆さんのFD

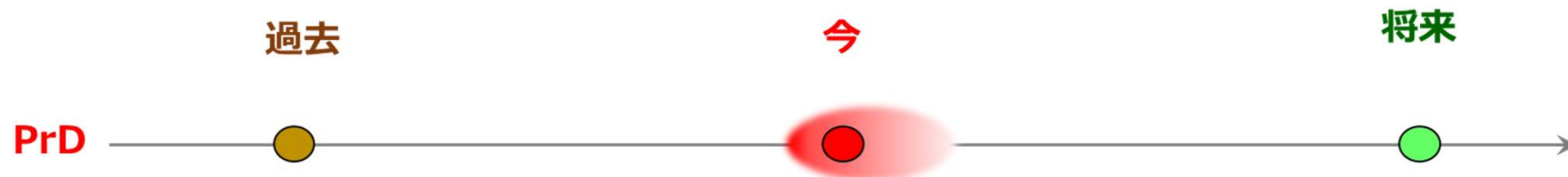
プレゼント・デザインの「今」

「地元住民の無関心や世界遺産に対する実感の薄さ」を前提に、
「現在の状況や課題」を出発点とし、
「現実的な制約条件」を意識し、
「現在直面している課題が中心的な関心事」になり、
「具体的かつ実務的な手段や政策」の提案

AIによると過去の
場面の比率は
1%未満



- ・三池炭鉱遺産の「目の前」のことを「今」
三池炭鉱にまつわる歴史・文化などは蚊帳の外



パスト・デザインの「今」

2020年の「合同慰霊碑の建立」が重要な「今」：1963年の炭じん爆発事故の死者458人の「慰霊」。1959-60年の三池闘争で生じた旧労組と新労組の対立⇒両者が和解・建立に協力。一酸化炭素中毒の後遺症も議論。

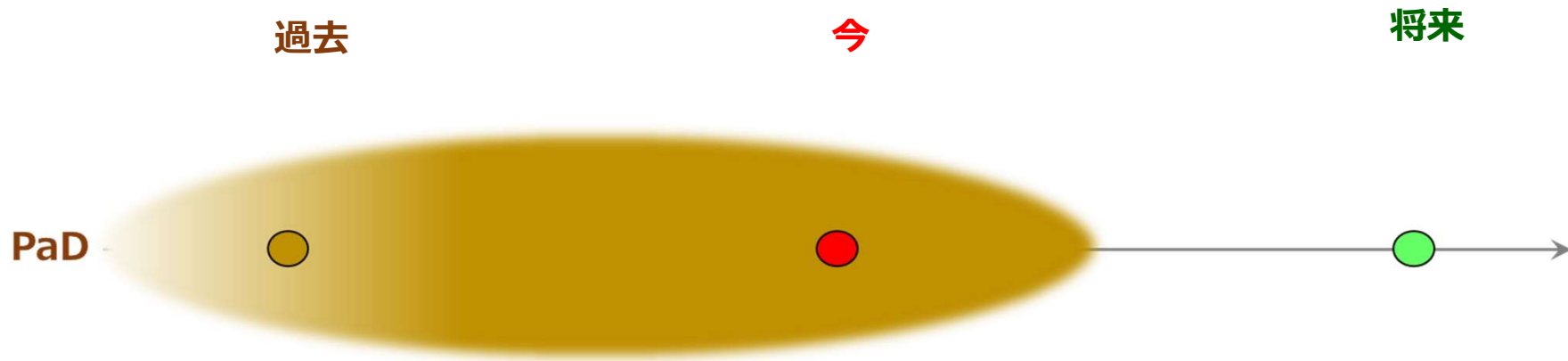
衰退する「今」：世界遺産登録から10年が経過してもなお、地域の持続可能性という根本的な課題が解決されていない「今」。市の厳しい財政状況、商店街の衰退の「今」。

分岐点としての「今」：世界遺産登録10周年という節目⇒今後30年、50年先を見据えた持続可能な保存・活用のあり方を真剣に模索しなければならない重要な分岐点が「今」。



・三池炭鉱遺産以外の「今」 + 「将来」

パスト・デザインの「今」



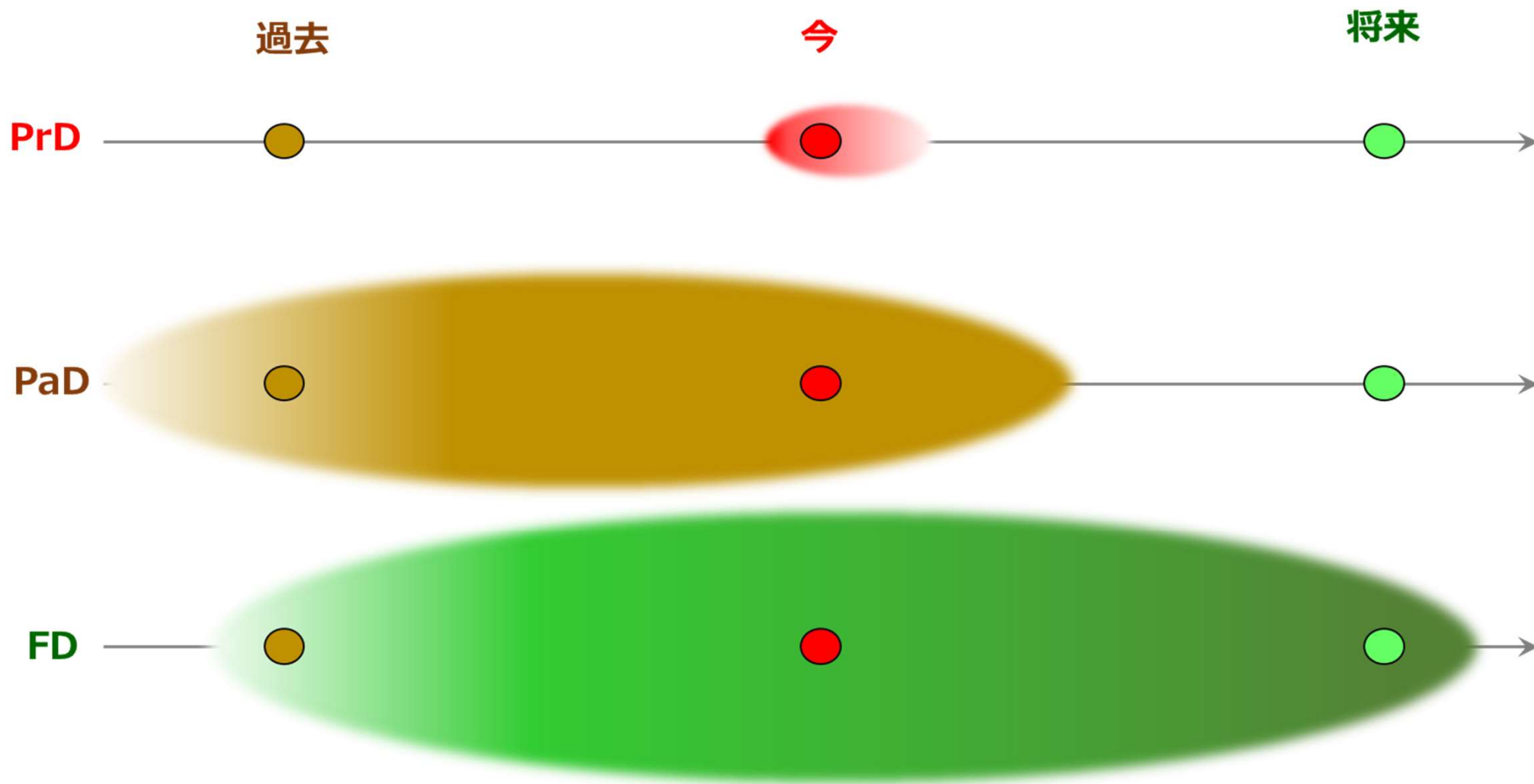
フューチャー・デザインの「今」

「**今(2050)**」：「**住民の意識変革が既に達成**」されたとし、
「できない理由」を探すのではなく「**どうすればできるか**」という前向きな思考が浸透した社会を想定し、大胆なビジョンを達成するために
「**今(2025)**」何をなすべきか。

「**今(2050)**」：三池炭鉱の「**光**」と「**影**」をよく理解 ⇒ 2000年前後では、「**負の遺産**」を残すことに対する強い抵抗、閉山は悲しい「**過去**」として記憶、「**今**」では、あるがままの光と影の両面を受け入れ。人口が半減し、大家族から核家族、そして「一人ぼっち社会」へと変化していった社会の変遷も、「**過去**」の重要な側面として議論



・「**今(2025)**」も「**過去**」も「**今(2050)**」も

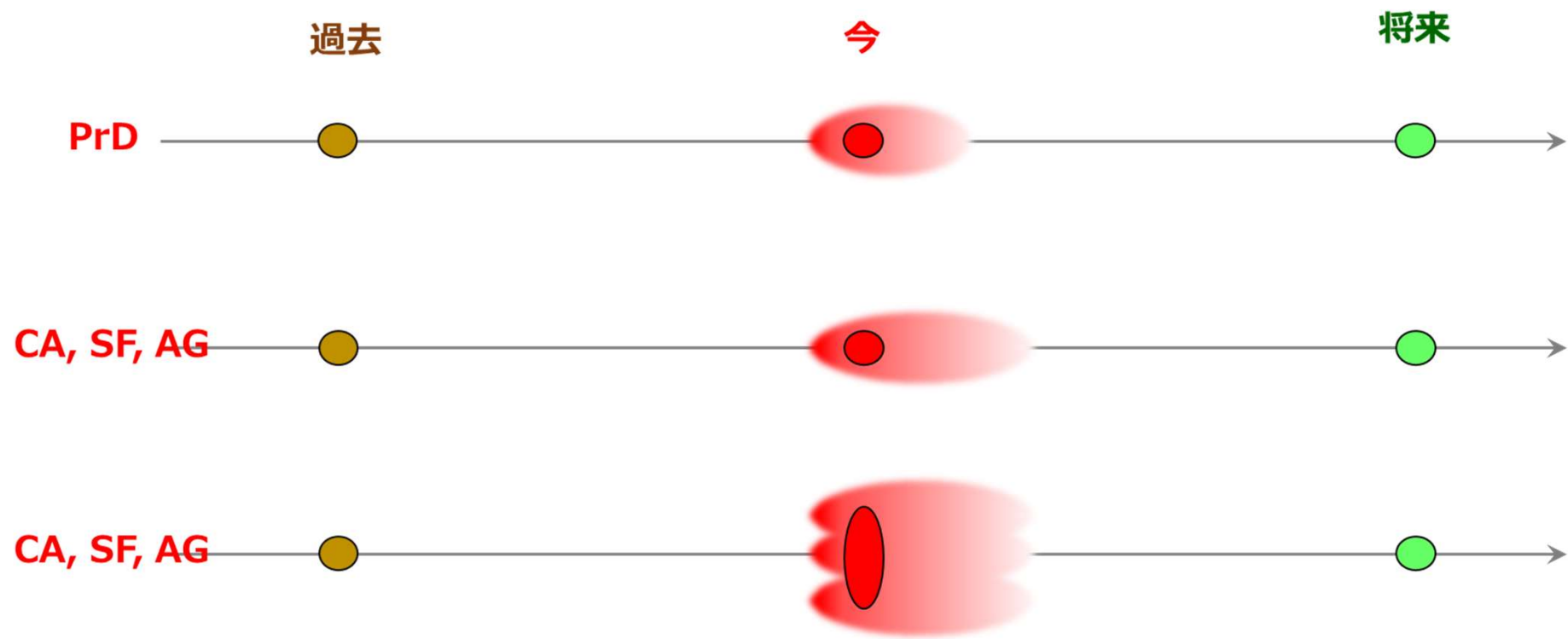


CA, SF, AGだと？

- ・ 市民会議 (citizens' assembly, climate assembly, CI),
戦略的予見 (strategic foresight, SF),
先見的ガバナンス (anticipatory governance, AG):
さまざまな手法が開発 ⇒

プレゼント・デザイン？

- ・ どんな雲を描いているのか？



西條『実践フューチャー・デザイン』日本経済新聞社、近刊